

☆教科書の18ページ・19のページを読み取った組みあわせ。

話し言葉と書か言葉には、どのよしなりがいがあるか調べよ。

1

シニアの人の言葉と、インタビューメモを比べて、気付いたことを書れ。

食材にはじいたわっていて、野菜も卵も牛乳も地元産なんですよ。あ、牛乳もだ。

これは、愛用のフライパン。店を始めたときから、十年間、使ってこない。



＜インタビューメモ＞
食材は、野菜も卵も牛乳も地元産を使っている。
フライパンは、創業以来10年間、愛用している。

＜振りふたじと＞ (例)
・メモの方が語順を整えていた
・「店を始めた時から」を「創業以来」に変えている

・語尾がちがう
など



2

話し言葉と書か言葉の特徴や気をつかうことをまとめて。

話し言葉	書か言葉
・机の(大きさ)や(上げ下げ)、(間)の取り方など、自分の気持のを表す	・気持のは(なぜ)。
・(音 韻)で表す言葉なの(あぐい) (逃げてしまつ)。	・(文字)で表す言葉なの(逃げてしまふ) (残る)。
・机の(大きさ)を(あぐい直せる)。	・手元をはなれてしおつて、たててこな(書き直せない)。
・実物を示した(いじねあひ)で表す(ことわざ)。	・誤解をあたえな(よひ)、(主語)を明らかにしたら、(誤解)がな(よひ)にしたりある(よひ)の注意が必要。
・相手に応じて(言葉づかい)を選び。	・だれが読んでも分か(よひ)、(共通語)で書く。
・内容を考へながら話すので、「ええと」のよくな言葉がはやまれたり、「語順」が整わなかつたりあるいじわる。	・内容を(整理)して(書か言葉)をしてから人に(見直す)。

それぞれの特徴を理解して、適切な言葉を使うことが大切じゃな。



③

友達への手紙やメールなど、話しかけたいのまま文句にしてしまうことがあります。その時の特徴や気をつける点について簡単にまとめました。

【特徴】 (例)



- ・言葉を省略して短くやせる
- ・親しい漢字が出来ない
- ・気軽にやり取りできる
- ・乱暴な言葉にならないとする
- ・語尾がちがう
- ・相手が困るといないので、反応が分からない

なし

【誤をつくる】 (例)

- ・書いたことがつまらないが誤解を生んでしまうことがあるのを気づかず
- ・使う言葉に気をつかない
- ・送る前に、しつかりと読み返す
- ・「これあげ」と言葉ではなく、何のことをちゃんと示す方がよい

なし

テーマ
① 小学校での一番の思い出 ② 今まで旅行で行った中で一番気に入ったといい ③ 今だから話せる 失敗談 (いつのことをいつの)

【話しかけられた人】



④ 家の人に、次のテーマから一つ選んでインタビューし、聞いたことを書きたい言葉で直してまとめてみましょう。

※お読みじていただこうたり、じつからひ お読みよう。